

第 2 回「札幌市総合交通計画策定委員会」

「計画理念・基本方針・各交通モードの基本的な考え方」編

平成 2 2 年 9 月 2 1 日(火)

札幌市 市民まちづくり局 総合交通計画部

～目次～

0. はじめに「今回の検討の進め方」	1
1. 札幌市総合交通計画の「計画理念」(案)	2
1-1 札幌市の「将来都市像」(第1回委員会資料より)	2
1-1-1 第4次札幌市長期総合計画(上位計画)	2
1-1-2 札幌市都市計画マスタープラン(上位計画)	3
1-1-3 道央都市圏「都市交通マスタープラン」(関連計画)	4
1-2 計画理念(案)	6
2. 計画理念の実現に向けた「基本方針」(案)	8
2-1 札幌市の現状と交通課題(第1回委員会資料より)	8
2-2 交通課題等の分類	10
2-3 基本方針(案)	12
3. 各交通モードの基本的な考え方	15
3-1 検討の進め方	15
3-2 札幌市の交通体系	16
3-3 各交通モードの基本的な考え方	18
3-3-1 鉄軌道(地下鉄・JR)	18
3-3-2 バス	24
3-3-3 自動車(道路)	28
3-3-4 交通結節点	37
3-3-5 その他の交通モード(第3回委員会で整理する交通モード)	40

0. はじめに「今回の検討の進め方」

これまでの札幌市は、人口増加と市街地の拡大、交通需要の増加など量的な対応のため交通施策に取り組んできたが、これからは、少子高齢化社会への対応、環境問題など質的転換への取り組みが求められている。

そのため、「札幌市総合交通計画」では量的課題への対応だけではなく、理想とする「将来都市像」を実現すべく、総合的・戦略的に交通施策を展開していくために、創造的な視点で「計画理念」及び「基本方針」を定めることとした。

今回の検討の進め方として、「第4次札幌市長期総合計画」等での「将来都市像」を踏まえ、その実現に向けて札幌市の都市交通はどうあるべきか（“計画理念”）、そして、どう取り組んでいくべきか（“基本方針”）を整理する。

また、基本方針(案)に基づき、“各交通モードの基本的な考え方”を第2回・第3回委員会に分けて、整理を行う。

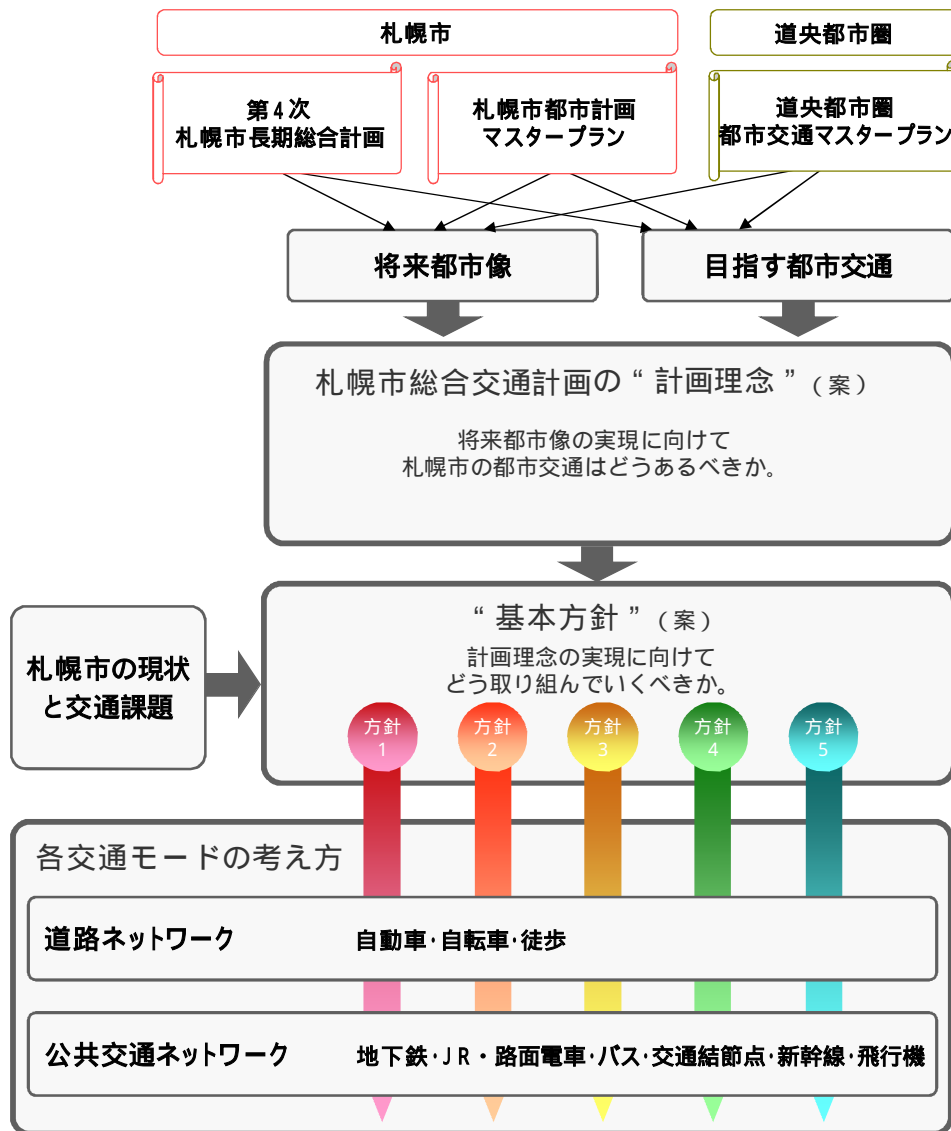


図0-1 今回の検討フロー

1. 札幌市総合交通計画の「計画理念」(案)

1-1 札幌市の「将来都市像」(第1回委員会資料より)

1-1-1 第4次札幌市長期総合計画(上位計画)

平成12年1月に策定された「第4次札幌市長期総合計画」では、基本構想で掲げる「北方圏の拠点都市」「新しい時代に対応した生活都市」の2つの都市像を受け、外延的拡大の抑制によるコンパクトな市街地の形成を目標に、「多中心核都市構造の実現」「都心縁辺部、地下鉄沿線等への居住の誘導」といった環境低負荷型都市構造への移行による持続的発展を目指している。

これに応じる都市交通の将来像は「公共交通を軸とした交通体系の確立」「適切な自動車交通の実現」「広域ネットワークの充実」により、多様な都市活動を維持・創出していくことを目指している。

さらに、都心を「多中心核都市構造の中心」としたうえで、魅力的で活力ある都心整備を進めるとしており、札幌の魅力向上につながる空間形成や、人にやさしい交通環境を確保していくことを目指している。



図 1-1 多中心核都市構造を構成する主要な拠点と高度利用住宅地, 居住促進ゾーン

1-1-2 札幌市都市計画マスタープラン（上位計画）

平成 16 年 3 月に策定された「札幌市都市計画マスタープラン」は、第 4 次札幌市長期総合計画を受けて定める都市づくりの全市的指針である。

「札幌市都市計画マスタープラン」では、これまでの拡大成長期の都市づくりから基本方向を見直し、『持続可能なコンパクト・シティへの再構築』を都市づくりの理念としている。

都市全体の視点からは、市街地の拡大抑制を基調として、既存都市基盤を有効に活用しながら都市の魅力と活力を向上させることとし、身近な地域の視点では、主として徒歩での移動が可能な身近な生活圏の中で、日常的な生活を支える多様な機能がまとまりをもって提供されることを目指している。

また、今後の都市づくりにおいて、特に総合的な取り組みとして、「都心の再生・再構築」「多中心核都市構造の充実・強化」「多様な住まい方を支える高い居住環境の実現」「市街地の外の自然環境の保全と活用」「オープンスペース・ネットワークの充実・強化」を都市づくりの力点と位置付けている。

「札幌市都市計画マスタープラン」における部門別の取り組み方針のひとつとして、「交通」を位置付けており、現行のマスタープランでは「交通」に関し、以下の基本方向を定めている。

< 基本方向（交通） >

総合的な交通ネットワークの確立

- ・ 公共交通を軸とした交通体系を確立
- ・ 必要な道路の整備や自動車の流れの分散化などにより適切な自動車交通を実現
- ・ 広域的な交通ネットワークを確立

地域特性に応じた交通体系の構築

- ・ 地域特性やまちづくりの方向を踏まえた交通体系を構築

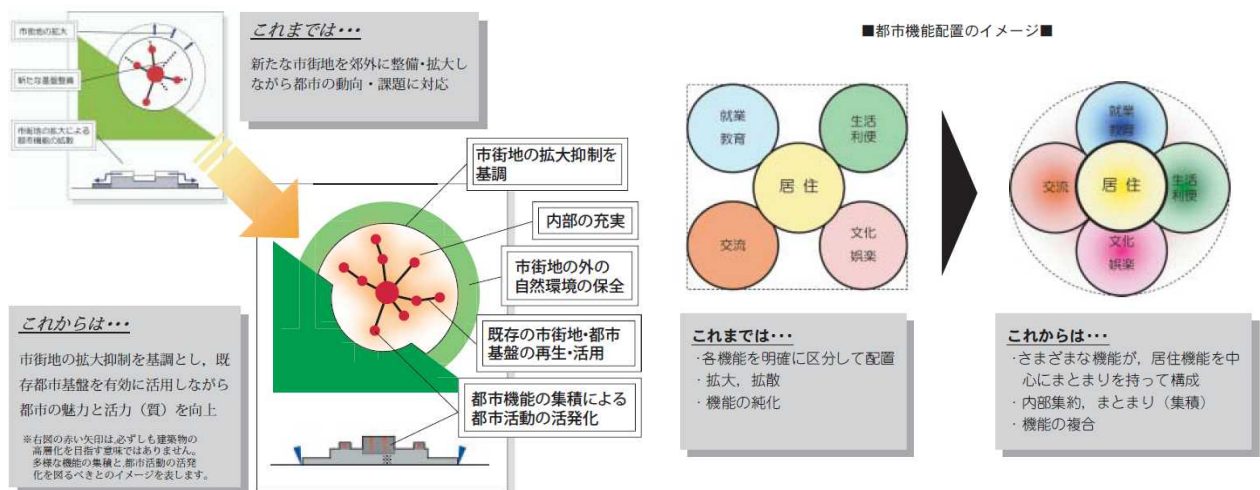


図 1-2 都市全体の視点（左図）と身近な地域の視点（右図）から見た「持続可能なコンパクト・シティ」

1-1-3 道央都市圏「都市交通マスタープラン」(関連計画)

札幌市を含む7市3町で構成される道央都市圏において、第4回道央都市圏パーソントリップ調査(2006-2009年)が実施され、道央都市圏における「都市交通マスタープラン」が策定された。

このマスタープランでは、国・道・各市町のまちづくりに関する上位計画、全国および道央都市圏の社会情勢などを背景とし、交通実態調査データの現況分析から浮かび上がった現状の問題、課題を整理することで、「暮らし」「活力」「環境」の3つの視点で、「道央都市圏の将来像(計画理念)」と「目指すべき交通の姿」を設定している。

なお、これらのキャッチフレーズとして、3つの視点の頭文字から、下図のとおり「道央LIVE plan」と名付けられている。



図1-3 道央都市圏の交通が目指すべき姿

計画の必要性

人口増加に伴う経済成長からの転換

- ・人口減少下での持続的な発展
- ・グローバルな視点での競争力向上

超高齢社会の到来

- ・歩いて暮らせるまちづくり
- ・公共交通の維持

環境に対する意識の高まり

- ・環境負荷の少ない交通システム
- ・環境に配慮し、自然と共生する生活スタイルの実現

今後の計画を考える上で必要な点

- ・視点の転換 : “つくる” “活かす”、“上手につかう”

「あるべき将来像」(計画理念)と「交通の基本方針」

暮らし Life

<あるべき将来像>

日常生活を支える拠点(都心、広域交流拠点、地域中心核)において、地域特性に応じた多様な都市機能の集積を図り、北国の文化を引き継ぐとともに、お年寄りから子供まで誰もが、安全、安心に暮らすことができる、利便性の高い都市を目指す。

<交通>

基本方針 (暮らし)	年間を通じて、どんなときも、誰もが安全、安心に暮らせる利便性の高い交通環境を実現する。
----------------------	---

活力 Vitality

<あるべき将来像>

札幌都心には、道内・国内外と交流・連携する多様な機能の高度な集積を図る。

また、周辺地域の都市生活エリアや産業・流通拠点、田園地域との連携強化も図ることで北海道経済を牽引するとともに、持続的成長を支える都市を目指す。

観光、物流、医療などで大きな魅力や安心を有する拠点と、国内外との交流・連携を支える2空港、3港湾、新幹線駅との連携強化を図ることで、道内、国内、国外の様々な人と人、地域と地域が交流・連携する活力と躍動感あふれる都市を目指す。

<交通>

基本方針 (活力)	都市拠点、産業拠点の育成と国内外に魅力をもつ拠点間の交流・連携を支えるなど北海道経済を支えるモビリティを確保する。
---------------------	---

環境 Environment

<あるべき将来像>

地球温暖化などの環境負荷を低減させるとともに、周辺市町に存在する日本海に面した長い海岸線、広大な石狩平野と背後の丘陵地における豊かな自然環境と共生しつつ、田園居住や芸術・文化交流といった創造的都市活動など多様なライフスタイルを実現できる都市を目指す。

<交通>

基本方針 (環境)	環境に優しく、持続可能な都市を支える交通環境を実現する。
---------------------	------------------------------

1 - 2 計画理念（案）

前述の上位計画・関連計画の記述から、札幌市が目指す「将来都市像」に関するキーワードを抽出したところ、以下のとおりとなる。

【札幌市が目指す将来都市像の整理】

第4次札幌市長期総合計画

札幌市都市計画マスタープラン

北方圏の拠点都市・新しい時代に対応した生活都市
市街地の外延的拡大の抑制
多中心核都市構造
都心縁辺部、地下鉄沿線等への居住の誘導
環境低負荷型都市構造・持続的発展
持続可能なコンパクト・シティへの再構築
都心の再生・再構築
多様な住まい方を支える高い居住環境の実現
市街地の外の自然環境の保全と活用
オープンスペース・ネットワークの充実・強化

【道央都市圏が目指す将来都市像の整理】

道央都市圏

都市交通マスタープラン

地域特性に応じた多様な都市機能集積
北国の文化の継承
誰もが安全安心に暮らせる都市
札幌都心の多様な機能の高度集積
北海道経済の牽引と持続的成長
観光、物流、医療の拠点
道内、国内、国外の人と地域の交流
環境負荷の低減
豊かな自然環境との共生
田園居住や創造的都市活動など多様なライフスタイルの実現

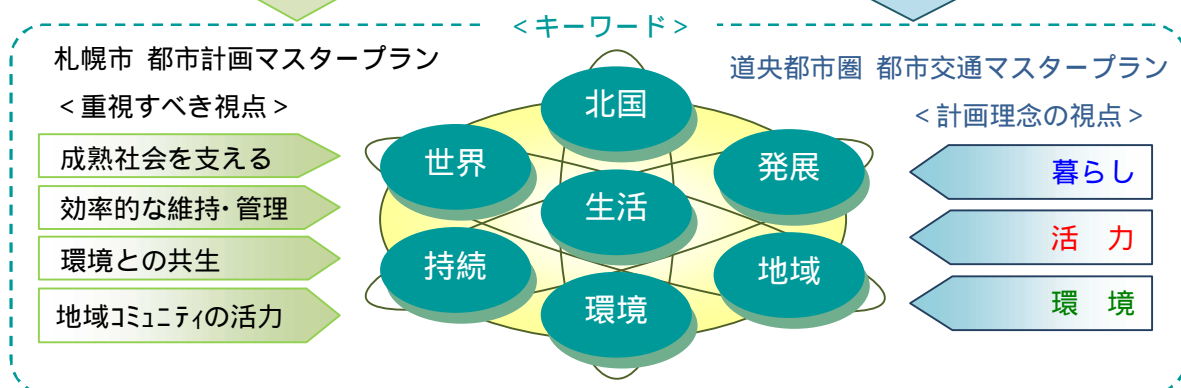


表 1-1 上位計画等から導かれる「キーワード」の方向性イメージ

北国	北方圏の拠点都市として、積雪寒冷の気候に対応した北国の文化を継承する。
生活	多様なライフスタイルを選択でき、誰もが安全安心に暮らせる生活環境を実現する。
持続	効果的な維持・管理を図り、人口減少下においても持続可能な成熟社会を実現する。
発展	北海道経済を牽引する中心都市としての役割を担い、持続的な発展・成長を目指す。
世界	新しい時代に対応し、国内外との交流を促進する。
地域	都心や駅周辺での居住促進など、地域コミュニティの再生を図る。
環境	地球温暖化などの環境への負荷を低減する。 市街地拡大の抑制など豊かな自然環境と共生を目指す。

次に、目指す「都市交通」について上位計画・関連計画の記述を整理したところ、以下の取り組みの方向性から“3つのバランス”が重要となっている。

【札幌市が目指す都市交通】

第4次札幌市長期総合計画
札幌市都市計画マスタープラン

公共交通を軸とした交通体系の確立
適切な自動車交通の実現
広域的な交通ネットワークの充実
総合的な交通ネットワークの確立
地域特性に応じた交通体系の構築

【道央都市圏が目指す都市交通】

道央都市圏
都市交通マスタープラン

歩いて暮らせるまちづくり
公共交通機関の維持
“つくる”から“活かす”“上手につかう”へ。
<交通の基本方針>
「暮らし」:年間を通じて、どんなときも、誰もが安全、安心に暮らせる利便性の高い交通環境を実現。
「活力」:都市拠点、産業拠点の育成と国内外に魅力をもつ拠点間の交流・連携を支えるなど北海道経済を支えるモビリティを確保。
「環境」:環境に優しく、持続可能な都市を支える交通環境を実現。

<3つのバランス>

<公共交通と自動車>

「公共交通を軸とした交通体系」と「適切な自動車交通の実現」による「公共交通と自動車」のバランス。

<サービス水準の変化と利便性>

“つくる”から“活かす”“上手につかう”といった視点の転換に伴う「サービス水準の変化と利便性」のバランス。

<市民・企業、交通事業者、行政の役割>

「公共交通機関の維持」や「地球温暖化問題」に対する「市民・企業」、「交通事業者」、「行政」の役割バランス。

上位計画等から導かれる目指すべき「将来都市像」と「都市交通」の方向性を考慮して、札幌市総合交通計画における「計画理念」(案)を以下のとおり設定する。

札幌市総合交通計画の「計画理念」(案)

『北国の特性に対応した都市の持続的発展を支える総合的な都市交通を実現する』